

## 法蔵 333号 七月号

・7月12日(日)午後0時より 「定例法話会」 お話していただく布教使さんは、南富良野町 恵光寺 酒井智師です。皆様聞きにいらしてください。

・7月28日(火)午後1時より 親鸞聖人御命日のお参り

・8月5日(水)午後1時より おみがきもの (順信寺の仏具をピカピカに磨いて御浄土の輝きをだします。御協力よろしくお願ひ申し上げます。)

○ このような状況(新型コロナウイルス問題)ですので変更は有るかもしれませんが、7月末から遠方にお盆のお参りに伺う予定でおります。お盆参り等について御要望がございましたら遠慮なくご連絡ください。

○ 6月16日に帰敬式(仏弟子となり法名をいただく式)を6人の方が受けられました。厳粛に執り行われました。式を受けられた方々の姿を見て、歩んできた人生の苦勞を教えて頂きました。私にとっても大変貴重な、有り難い式となりました。



○ 6月20日21日と永代経法要に新型コロナウイルス感染に注意して行うことができました。ありがとうございました。布教使さんのお話は、いかがでしたでしょうか。感想を聞かせていただければ大変ありがたいです。

・「これまでの人生で最も痛かった経験は？」と聞かれたら、皆さんはどのように答えるだろう。ぼくの場合は膀胱拡大術の手術を受けたその晩、まるで腎臓を誰かに握りつぶされているかのような激痛に襲われたときだ。夜中に何度も当直医を呼び、傷み止めを投与してもらった。少し引いたかと思えば、また激しい痛みがぶり返す。いつになったら夜が明けるのか、このまま痛みが引かないのか、このまま痛みが引かなかったらどうになってしまうのか、激痛に身も心も支配されている間、ぼくは絶望的なことばかり考え続けていた。

これは、瞬間瞬間の積み重ねをばくたちは生きているからなんだと思う（瞬間が途絶えた時ばくたちは死ぬのだから、あたりまえのことだ）。痛みを満たした瞬間が積み重なっていく「今」があるとき、そしてそれが永遠に続くかと思えるとき、その「今」にばくたちは絶望したりする。人が「死にたい」と思うのはこのようなときだろうし、その気持ちを簡単には否定できない。しかし、傷みが軽減していけば、「今」は痛みを満たしたものから当然変化していく。死にたいと思う気持ちは後景に退き、生死など考えない日常に戻っていくのもこれはまたよくあることだ。生き死にの問題を考えると、人の気持ちは変化するのだという当たり前の事実を、ここであらためて強調しておきたいと思う。……

しかし、二度と繰り返したくない経験も含め、いずれが欠けても今のぼくには決してならない。そのような丸ごとの生を、人は誰も生きているはずだ。ならば、ある瞬間や1つの側面を切りとって他者を勝手に評価することは、丸ごとの生を切り刻み、人間という存在そのものを否定することと同じなのだと思う。……」

（大阪教育大学 非常勤講師 松永真純「季刊しづく⑧ もう口をつぐんでくれよ……」より）  
～あたり前の話なのですが人の気持ちも状況も色々と変わるので。その中でお互いに、この今を不安をかかえ、悩みながら生きているのです。尊重し合い生きていけたらと思います。

・ある坊主（お寺の奥さん）さんの手記に以下の文がありました。そうだなと思いましたので載せさせていただきます。

「……外出自粛で先の見えない繰り返しの日々の中でも、目に見えたり、手に触れたり、耳で聞こえたりする目の前の今を大切に受け取れば、自分の立っている場所も不安でいっぱいにならない。なぜなら、自然と口をついて出てくる子どもの歌うようなお経の声には、今を生きている喜びを感じるから。

その喜びは、お経だから特別というのではない。夜寝て、朝起きて、ご飯を食べ、家族や友達と語り合う、そんな当たり前のようで当たり前でない、全てが移り変わりゆく掛け替えのない日々の営みが、世界中の小窓に明かりと灯すのだ。」

・忠峰コーナー

「病院で 交わす挨拶 夏の昼」

「草ロール 畑一面に 転がれり」



真宗大谷派 摂晃山 順信寺  
じゆんしんじ

〒098-5206 北海道枝幸郡枝幸町歌登西町 120 番地  
TEL : 0163-68-2426 FAX : 0163-64-7755  
E-mail : Kamuro19890830@gmail.com

Facebook Twitter YouTube <https://www.jyunsinji.jp>

